

3A かわいい



<http://www.edu.city.yokohama.jp/sch/es/kawai/> (HP 随時更新中!)

季節とともに、前向きに

校長 窪田 剛久

校庭の池に張っていた薄氷も融け、梅の花もあちらこちらできれいに咲き誇っています。寒い日、暖かい日を繰り返しながら、少しずつ季節が前に進んでいるのを感じます。コロナ禍で沈んだ世の中も、季節が前に進むのと同様に、前向きに明るく変化していくことを願うばかりです。百人一首では梅の花を詠った句があります。



「春されば まづ咲くやどの 梅の花 独り見つつや 春日暮らさむ 山上憶良・万葉集」

(訳) 春になるとまず咲く我が家の梅の花を、一人見ながら春の日を過ごそう。

今はコロナ禍なので、梅の花は一人で見るのが適切でしょう。今年は季節が進み、桜が咲くころにも、できるだけ少ない人数で、桜を見るしかありません。梅の花の花言葉は「高潔」「忍耐」「忠実」。多くの親しい人たちと梅や桜を楽しむには、まだしばらく「忍耐」が必要です。皆様におかれましても感染拡大防止対策をされつつ、ますますご健勝にお過ごしになられますこと、心よりお祈り申し上げます。

いよいよ年度の締めくくりである3月となりました。今年度は明るい出来事を探すのが難しい日々が続きましたが、世の中では勇気づけられるニュースもありました。

コロナ禍で各地の医療従事者が厳しい状況のなか奮闘している一方で、その業務が過酷で危険な面が多いことも広く報道されました。そんな折、「夢を奪われてはならない」と、文書で互いを刺激しあうインターネット上での交換日記が、医学部生らでつくる学生団体により始められました。それが「生きるための交換日記」です。世の中がこれほど厳しい状況に陥る中、日記の中にはとても前向きに夢を語る文章も見られ、医療を志す若者だけでなく、それを見た多くの方々が勇気づけられました。

また福岡市では、高校生同士が新型コロナウイルスについて意見を交わす討論会が開かれました。討論会を企画したのは、福岡市の福岡大付属大濠高校3年、松本龍之介さんです。昨秋に計画し、会場となる施設との調整やSNS、チラシを使っての情報発信などを1人で進めてきたそうです。佐賀、長崎など近隣県の高校100校以上に直接電話し、参加者を募り、運営にかかる経費もすべて自分の貯金でまかなったということでした。



こうした若者の行動は、何より私達大人を勇気づけるものであり、前向きな気持ちを奮い立たせる原動力になるものです。本校でも「みんな仲よし委員会」のメンバーが、コロナ禍に対応をしてくださっている医療従事者に手紙を書こうという取組を企画しました。委員会のメンバーが各教室を回り、主旨を説明します。用紙を配り、メッセージの記入について協力を仰ぎます。その後回収まで行い、集まったものを地域の病院に送るという大きなプロジェクトです。厳しい状況は学校の中にもあり、数々の行動制限、行事の制限があるなかで、つい後ろ向きになってしまいがちですが、私たちが思うより子ども達はずっと前を向いていたのではないかと気づかされました。

かわいっ子は確実に成長しています。人の気持ちに寄り添い、自分たちにできることを考え、行動に移す力が育っています。こうした子ども達を育て、支えていただいている保護者の皆様、地域の方々に、この場を借りて改めてお礼申し上げます。本当にありがとうございました。間もなく進級、そして6年生は卒業を迎えます。「みんな仲よし委員会」が起こした自主的な行動が、伝統として下の学年に受け継がれるように、私達職員も全力を尽くします。季節が前に進むのと同様に、川井小学校も歩みを止めません。今後ともご協力の程、よろしくお願いたします。